都市環境計画の試みの評価

東京都市大学 学生会員 〇才木佑来 正会員 中村隆司

1. はじめに

1992年の地球環境サミットを契機として各国で持続可能な開発、「環境共生都市」整備の必要性が広く認識されている。日本でも、旧建設省が、自然との共生、環境負荷の軽減、アメニティの向上を狙いとした質の高い都市環境の形成を目標として「環境共生都市」という考え方を打ち出した。そこで本研究では、「環境共生都市」の創造のための方法の一つとして試みたられた「都市環境計画」についてその実態を分析し評価する。

2. 都市環境計画の実態

都市環境計画は,1994年3月に旧建設省が示した,環境政策大綱の中で提起した計画で環境に関する施策の総合的・計画的整備を図るものである.都市環境の向上を図るための計画であり「環境負荷の軽減」,「自然との共生」,「アメニティの創出」によって質の高い都市環境の形成を目指すものとされている.

また,都市環境計画は,都市施設整備,市街地整備等のハードな施策と,省エネルギー運動や公共交通の利用促進策,都市環境に関する地域住民の自主的活動や教育,普及啓発活動などのソフトな施策の双方が対象となっている.

「都市環境計画」の実際の策定については、国土交通省都市・地域整備局によると、現在ではこの計画は策定されていない。計画制度開始当初、「環境共生都市」を目標に段階的にこの計画は策定された。すなわち「環境共生モデル都市」としてモデル地区を設定し対象となる市町村を決め、実績を積み重ねた上で全国に展開することを予定していたが、実態としてはモデル都市での策定以降この計画は立案されていない。

そこで、計画の実態とその継承を探るために「環境 共生モデル都市」となった 20 都市の内 12 都市の「都 市環境計画書」を入手し、建設省が示した基本構成 ¹⁾ をもとに計画内容の比較・検討を行い、表 1 に示す.

都市環境計画の現況 都市環境形 日標達成及び課題 の具体的な方策 重点整備計画 都市環境計画 の理念 部市の土地利用及 (び登集の限況 報本の製出的 都市の自然的 都市環境改善の 都市環境に対する 現状のまとめ 東珠の現況 環境の限況 取越の現状 市民意識 課題・日標の 定量的な目標値 都市内の緑化推進、緑 豊かな自然環境の 怪会・剣出方策 整備方策 整備方策 を備方策 土地利用の 重点整備計画の 日標 重点整備計画の 基本方針 事業実施のあり方 版市環境計画の 日標課題 水理境の保全、 創出力等 その他の方策 計画立案年 主な整備事業 項目の有無 0 0 シネットワーク 0 0 0 本土の香砂油工業 「森をつくり、まちをつくり、人をつくる」 (省エネ型の 専才地性宅) □ 「青空と太陽、水と緑と目 然の香りを生かした 0 ○ -ラーエネルギ 0 0 0 0 /ーラーエネルギー 0 〇 (生活環境: 老人福祉、 道路の整備) 0 0 クリーンセンター 0 O 自然環境教育施I うるおい(水・緑)の B点とネットワーク形) 0 0 0 0 0 0 0 0 ニューファクトリー 0 0 0 0 0 0 0 昭和63年 「人 まち 自然が強く 交流ネットワーク都市 ○ 市民・企業の意識の 離成、風の道) 0 0 0 0 0 0 リサイクル都市 記載なし 0 0 0 〇 (大気汚染、 水質汚濁) 0 0 0 0 0 産業系物流の集約化、 音楽を取り入れた 環境芸術 Δ (音楽を中心とした 環境芸術による Δ Δ 記載なし Δ Δ 名古屋市 (愛知) 「住みたくなるまち ユーマン・サイエンス タウン、地域冷暖房 ##9 昭和62年 平成5年 0 0 0 0 0 0 「新-水の都 大阪」 0 0 0 0 0 被合都市開発、 戸田川再生事業 平成5年 「はばたけ 福山」 ○ 「真の豊かさ」にあられ ふまちを創り、未来の世 0 0 〇 (大気環境、騒音) 0 0 0 0 グリーンアーバン

表 1. 都市環境計画の構成と内容

:計画書なし

Δ :項目は無いが同様の内容が記載

キーワード:都市環境計画,環境共生都市,モデル都市

連絡先: 〒158-8557 東京都世田谷区玉堤 1-28-1 03-5707-0104

表1に示したように、以下の共通点がみられた.

- ①具体的な数値目標が設定されていない.
- ②事後評価システムが設けられていない.
- ③事業内容が従来の開発の上乗せであり、開発基準を 環境共生型に変えるような形に至っていない.
- ④ "重点整備計画"を除く項目の内容について都市間 に差異がほとんど無く地域特性を踏まえた上での環 境施策が実施されていない.

といった点が挙げられる. また, そもそも計画の対象 が広範囲であるため, 多くの関係部局にまたがっており, 他の関係計画と整合が図れていないという指摘も ある²⁾.

このように、都市環境計画には様々な問題点があり、 これらを消化しきれず、時間が進むにつれて当該市に とって必要性が薄れていき現在では運用されていない という結果に至ったと考える.

3. 関連計画との比較

そこで、現在において「都市環境計画」の代わりとなって運用されている計画はどのようなものか、12 都市について関係環境計画を各市町村別に入手し、比較を行った。比較を行うにあたり、「環境共生都市」の基本理念であり、「都市環境計画」が目標としている次のi~iiiの3つの項目に分け、どの計画に移行したのか調査し表2に示す。

- i. 都市との一体的な自然環境の形成
- ii. ゆとりや潤いのある都市空間の創出
- iii. 環境負荷の小さな都市システムの構築

表 2. 現在策定されている計画又は条例

市町村名			他関係計画 (移行後の計画)	市町村名	Г		他関係計画 (移行後の計画)
帯広市	i	\rightarrow			i	→	「富士市環境基本計画」、「富士市総合計画」、
			「帯広市総合計画 施策4-2-1 公開、緑地の整備」、				「富士・愛鷹山脈地域環境管理計画」
			「緑の基本計画」、「帯広市環境基本条例」	富士市	ii	\rightarrow	「都市計画マスタープラン」
			「帯広市環境基本計画」		iii	\rightarrow	「富士市地球温暖化対策実行計画」
	ii	\rightarrow	「都市計画マスタープラン」、		i	\rightarrow	「高松市環境基本計画」、「緑の基本計画」、
		→	「帯広市みどりのまちづくり条例」	高松市			「高松市総合計画」
	iii		「帯広市総合計画 施策4・1・1 地球環境の保全」		ii	\rightarrow	「都市計画マスターブラン」、「高松市環境美化条例」
			「環境モデル都市行動計画」		iii	\rightarrow	「環境行動率先実行計画」
北見市	i	\rightarrow	「北見市環境基本条例」、		i	\rightarrow	「名古屋市総合計画」、「花・水・緑 なごやブラン」
			「北見市緑づくり計画(緑の基本計画)」				「緑の基本計画」
			「北見市環境基本計画」		ii	\rightarrow	「都市計画マスタープラン」
			「常呂川水系緑地基本計画」		iii	\rightarrow	「市地球温暖化防止行動計画」
	ii	\rightarrow	「北見市総合計画 施策 3・2 まちづくりの基本目標」				(計画では無いが) 「低炭素都市2050名古屋戦略」
			「都市計画マスタープラン」	大阪市	i		「大阪府総合計画」、「緑の基本計画」
	iii	\rightarrow	該当計画なし		ii	\rightarrow	「都市計画マスタープラン」
盛岡市	i	\rightarrow	「緑の基本計画」、「環境基本計画」、		iii	\rightarrow	「温室効果ガス排出抑制計画」
	ii		「自然環境及び歴史的環境保全基本計画」		i	→	「福山市環境基本計画」、「環境保全行動計画」、
		\rightarrow	「都市計画マスタープラン」、				「緑の基本計画」
			「交通総合計画」、「オムニバスタウン計画」、	福山市	ï		「都市計画マスタープラン」
			「お城を中心としたまちづくり計画」		iii	\rightarrow	「福山市地球温暖化対策実行計画」、
			該当計画なし		L		「エコアクション21」
山形市			「山形市新環境計画」、「緑の基本計画」		i	\rightarrow	「北九州市環境基本計画」、「自然環境保全基本計画」、
	ii	\rightarrow	「都市計画マスタープラン」				「北九州市"緑"のルネッサンス計画(緑の基本計画)」
			「山形市交通マスタープラン」	北九州市	ï	\rightarrow	「都市計画マスタープラン」、
	_		該当計画なし				「北九州市集客交流計画」、
いわき市	i	\rightarrow					「門司港レトロ観光まちづくりプラン」
			「緑の基本計画」		m	\rightarrow	「環境モデル都市行動計画」
			「都市計画マスタープラン」				「北九州市地球温暖化対策地域推進計画」
船橋市	iii	\rightarrow	該当計画なし				
	i	\rightarrow	「船橋市総合計画」、「緑の基本計画」、				
			「船橋市環境基本計画」				
	11	-	「都市計画マスタープラン」、				
			「海を活かしたまちづくり基本構想・基本計画」				
	Ш	\rightarrow	該当計画なし				

比較を行った結果,表 2 に示したように都市環境計画は主に以下のような計画に移行されているということが分かった.

- i →「緑の基本計画」,「総合計画」,「環境基本計画」
- ii→「都市計画マスタープラン」
- iii→「地球温暖化防止行動/対策推進計画」,

「環境モデル都市行動計画」

重要な環境に関する要素である「緑」や「水」などの自然環境については「緑の基本計画」、「環境基本計画」に、まちづくりの分野については「都市計画マスタープラン」に移行されている。また、「環境モデル都市行動計画」などといった国土交通省が新たに策定することとした計画にも姿を変えており、事後評価システムも設けられている。

これらの計画の内容については、全体的に事業・活動など豊富に実施されている市町村が多く、特に「帯広市」、「船橋市」、「福山市」、「北九州市」は環境に関する計画が多く、様々な取り組みを行っており環境計画として充実しているものであった。

4. まとめ

都市環境計画が実施された 20 モデル都市について, 計画書を比較することで, その実態となぜ現在ではこ の計画が運用されていないのか, その原因を探ること ができた.

そして、この計画が運用されなくなった後の他の環境計画との比較を行うことで、「都市計画マスタープラン」、「緑の基本計画」、「総合計画」等、など様々な計画に内容を移行していることが分かり、「環境モデル都市行動計画」といった都市環境計画と同じ「環境共生都市」を目指す新たな計画も実施しているなど、各市町村の地域の特性にあったものへと形を変えて継承されているが、対応する計画の存在しない都市もある。また、継承計画は存在するが、むしろ「都市環境の計画」の全体像は、分かりにくくなっている。

参考文献

1) 建設省 建設省都市局長通達

「都市環境計画の策定の推進について」、1994

2) 永井克冶「環境共生都市のあり方について」

UFJ Institute Report. '96 1-4, P44-53, 1996